

3 Kは皆が嫌がる仕事の代名詞だ。かつての農仕事はきつい作業で、田圃に付きつきりだったが、今や多くの作業が日本の農地に合う小型耕運機や、刈り取り機の活用で、省力が達成できている。しかし、作物の取り入れなど、どうしても人手にたよると農業実習生など、不透明な3 Kの労働環境が発生する。人の生活に3 K作業が付き物なので機械化し省力化したい。

一〇年単位で、世の中の流れを見ると、日本の課題が近隣の中国、韓国などの社会問題が遅れて発生する。そこで、基本になるのは各国の人口構成と社会の成熟度が挙げられる。各国共通の社会環境は医療の発展と食料事情の改善のお陰寿命の延びに伴い高齢化が進んできた。日本ではこれから団塊世代が高齢化を迎え、如何にこれに乗れ越えるかが課題であり、それを上手に乗り越えたとしたら、その経験は後に控える近隣諸国の同様な社会問題の解決に大きく寄与する。

私を含めて、高齢者は体力や、筋力の低下や、その程度に応じて介護支援が必要になる。当然ながら、高齢者の増加は介護職員の増加を伴うが、同時に健康な高齢者も支援側に参加することが期待される。筋力や、意識の弱化した高齢者を介護するためには介護職員にそれを補う労働が求められる。いわば、今後日本社会に介護作業は一種の3 Kの発生である。そこで、思いつくのがロボティクスの活用である。想定する介護職員作業着では腕力や腰に掛る力を数分の一に省力したり、また、高齢者がベッドに張り付く時間を少しでも少なくして心理的に束縛感がすくなくなる高齢者用の活動補助用の医療服などが考えられる。

製造現場で使われている医療現場で作業研究を取りこみ、要介護高齢者と介護職員の動作研究を行っては如何か。現場で長期にわたり、現場にいる対象者の動線を記録し、無駄な動きをできる限り小さくする改善を掘り起こすなど。

次の時代の生活様式を想定して世代に適した需要が喚起できる。長期展望も大切な事柄である。